

第4回例会報告（2017年3月発信）

卒業式のシーズンになりました。新たな旅立ち、希望に燃えて。
大きく夢をふくらませて、しっかりと羽ばたいて欲しいものです。



広島支部では、第4回例会を3月5日（日）（比治山大学附属幼稚園ホール）に行いました。

今回も約20名の参加者がありました。いつも熱心に足を運んでくださる先生方に感謝です。講師は、坂本真理子先生。



今回のトピックは例会に参加したお二人の言葉を紹介します。

最初は、井本美穂さん（岡山理科大学講師）です。

『今日のテーマは「8分の6拍子」。午前はず、まず、「スキダマリンク」という躍動感のある歌を歌いながらスキップやジェスチャーをして、8分の6拍子を体で感じていきます。次は、3拍子や2拍子の音楽にあわせて、紙に模様を描いたり、2人でテニスボールをつきあいこして、拍のとり方の違いを感じます。

午後は、絵本を使ったうたあそび。「ガンピーさんのふなあそび」という絵本をもとに、船をこいでいく物語をつくります。大事なことは「子どもの表現を制限しないこと」。象さんが船に乗ってきたらどうなるかな？船がひっくり返る！くずれることの楽しさも学びます。研修会の終盤に行った8分の6拍子の曲のピアノ伴奏や即興演奏は、拍を感じた表現力あふれるものになりました。

坂本先生の研修会は、すぐに実践に活かせるアイデアをたくさんいただけるうえに、みんなでいっぱい動いて歌って自分自身も元気になれるので、参加して本当によかった！といつも思います。坂本先生、ありがとうございました』



次は、この例会に初参加の高橋こころさんです。高橋さんは、この3月に比治山大学を卒業して幼稚園の先生になります。

『実際にリトミックをしてみて、音を感じ、自由に表現することの楽しさを改めて感じました。リズムや拍、強弱を意識すると、自然と音に合ったような動きが出来、音楽の要素が自然に身に着くりトミックの素晴らしさを感じました。また、リトミックは1人で動くものではなく、目を合わせたり、体を触れさせたり、周りと協調しながら動くものであり、自然と他者と息を合わせることができる実感しました。

リトミック指導のピアノ伴奏では、ゆっくり・普通・速いのテンポを使い分けたり、強弱をつけたりすることを滑らかに取り入れることが大切だと感じました。また、その滑らかに変化するテンポの違いを感じ取れるようになると、リトミックの楽しさはより一層広がると感じました。

この研修会では、リトミックは正解や不正解がなく、自分らしさが出せるものであると改めて感じました。実際に指導をしてみると、現時点ではピアノの演奏技術や、感性の豊かさ、イメージを膨らませて体を動かす促し方など充分とはいえません。様々な表現を子どもたちに提供できるよう、自分の引き出しを増やしたり、リトミック指導についてより学んだりしていきたいです。そして、私自身が感じたように、「音楽に合わせて体を動かすことの楽しさ」を子どもたちと共有したいです』



本年度も様々な面で、多方面の方々にお世話になりました。厚く御礼申し上げます。次年度も、先生方の多数のお越しをこころよりお待ちしております。気軽にご参加ください。